

アクリル・ウレタン ハイブリッド型

新エマルジョン投入

塗料バイイン ダーなど開拓 差別化製品へ育成

大成フアインケミカル ケミカル

大成フアインケミカル
(本社・千葉県旭市、徳
倉眞治社長)は、アクリ
ル樹脂とウレタン樹脂の

ハイブリッド型マイクロ
エマルジョンを開発し
た。造膜性、光沢性とい
ったアクリル樹脂の長所
と、強靱性、接着性など
ポリウレタン樹脂の長所
を兼ね備えるのが特徴。
一液性常温硬化型の自己
架橋反応システムが組み
込まれており、水の揮散
後に耐水・耐溶剤性の良
好な皮膜を形成する。塗
料や水性インキのバイ
ン

ダー、コーティング剤な
どの用途に展開し、差別
化製品として重点育成す
る方針。
大成フアインケミカル
が開発したアクリル・ウ
レタン・ハイブリッド型
マイクロエマルジョン
は、異なる樹脂などを組
み合わせる独自のコア/
シエア化技術と、樹脂の
二段重合技術を駆使し、
製品化したもの。固形分

比率や粘度、分子量など
の違うグレードをそろえ
ている。

アクリルの長所である
造膜性、光沢性、耐候性、
硬度、顔料分散性と、ポ
リウレタンの長所である
強靱性、接着性、耐摩擦
性などを兼ね備え、各種
プラスチックやフィルム
(ポリエチレン、塩ビ、ナイロ
ン)に対する接着性に優
れる。ハイブリッド化に

よってポリウレタンの長
所を保持しつつ、低コス
トを図った。

プラスチックや建材な
どの各種塗料、バインタ
ー、フィルム用コーティ
ング剤などのほか、感熱
紙のオーバークート剤、
不織布用コート剤、合成
皮革トップコート、木工
用、金属焼き付け用など
幅広い用途に使える。
各種用途によって求めら
れる性能や機能が異なる

ため、同社では需要家に
対しきめ細かに対応。樹
脂の配合比率をはじめ固
形分、粘度などを変え、
最適な物性でニーズにこ
たえる。

同社は昨年、大成化工
から樹脂事業を継承し分
社化した企業。アクリル
樹脂「アクリリット」(商品
名)では、二百五十種の
モノマーを使い約六百品
種の製品群をもつ。長年
蓄積した生産技術と、グ
ラフトポリマー、変性樹
脂を応用した樹脂合成技
術で高度化する市場ニ
ズにこたえている。